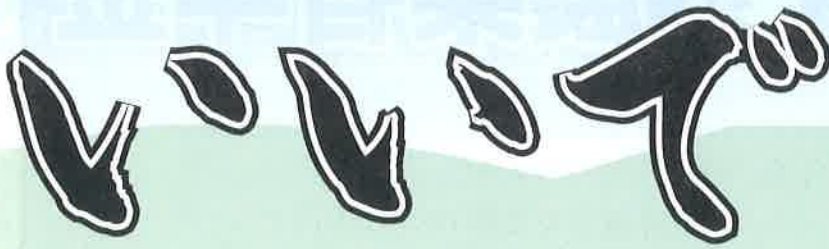
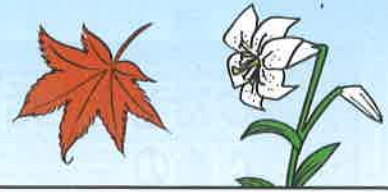


農委広報

《No.5》



平成17年6月23日発行
飯豊町農業委員会
電話 0238(72)2111(代)



ウドの収穫作業

中津川体験農園

中津川体験農園のオーナー制のウド畑では、5月下旬から6月上旬にかけてウドの収穫が行われました。

体験農園のウドは、大変にやわらかくおいしいと評判で、応募受付と同時に町内はもちろん県内各地から応募があり貸出区画はすぐに埋まってしまいました。

栽培のウドですが、自生のものに劣らない香りがあり、オーナーたちは収穫作業に汗を流していました。

充実した老後生活を送るための

新 農業者年金

私たちは、世界一の長寿社会の中におり、老後の生活は大変大きな課題となっています。

しかし、**国民年金**（基礎年金）に最高40年加入した場合でも

年金の月額約6万6千円、**夫婦併せても約13万3千円**です。

一方、老後に必要な生活費（世帯主が65歳以上で2人以上の世帯）はどうでしょう。

総務省統計局の平成12年家計調査によると

高齢者夫婦の一ヶ月の平均支出は約27万円と言われております。

でも、ご心配は要りません、その不足分を補うのに農業者年金がお役に立ちます。

農業者年金はメリットいっぱいの制度です

1

国民年金の被保険者で年間60日以上農業に従事されている方は誰でも加入できます。

2

積立方式で少子高齢化の時代に対応した安定した制度となりました。

3

認定農業者等一定の要件を備えた方に対し保険料の手厚い国庫助成（政策支援）があります。

4

月額2万円から6万7千円までご自身のライフプランに合わせ保険料を自由に選択できます。
※国庫助成（政策支援）を受けている場合の保険料は、2万円で固定されます。

5

税制優遇でとってもお得。毎年最大80万4千円の所得控除。支払われる年金も公的年金控除が適用されます。

6

途中でやめても年金が受けられ、80歳保証付（加入者・受給者の方が80歳までに受け取るはずであった年金を遺族の方に死亡一時金として支給）の終身年金です。

年金額の試算表（政策支援を含め保険料月額2万円の場合のモデル例）

（金額：万円）

加入年齢	納付期間	保険料納付総額			性別	年金額 ()内は月額	年金総額
		本人負担	国庫助成	合計額			
40歳	20年	408	72	480	男	30.4 (2.8)	657
					女	29.2 (2.4)	707

※65歳までの運用利回りは2%、65歳以降の予定利率は1.05%で計算していますので、運用成績により運用利回りが違えば、年金額も違ってきます。なお、個人別の年金額の試算は当基金ホームページの「年金額の試算」をご利用ください。
※「年金総額」欄は65歳での農業者年金の平均余命を考慮し、男84.3歳、女89.2歳まで生存した場合の年金受取総額です。

加入の申込みやご相談については、
農業者年金基金か最寄りの農業委員会またはJAに
お問い合わせ下さい。

独立行政法人 **農業者年金基金**

相談指導員

03-3502-3199

企画調整室

03-3502-3942

ホームページ

<http://www.nounen.go.jp>

シリーズ「がんばっていきます！若手農業者」

新規就農者のみなさん

飯豊町で農業を始めて

荒井 正信 さん(椿)

私は、施設農業でミニトマトを作り始めて3年目になります。世間で言うところの新規就農者です。

私がなぜ農業をしようと思ったのか。どうしてミニトマトなのか、その理由は飯豊町のトマトが美味しかったからです。もっと言わせてもらえば、非常に美味しかったからです。「こんなミニトマトを作って、お客さんに「うまい」といわせたい」と思ったからです。

飯豊町に来る前は、製造から販売まで行っている、全国チェーンの洋菓子店に勤めていました。味の良さを評判の店でしたが、食べ物商売をしていて何が嬉しいかと言えば、店の雰囲気をはめられるとか、高い売上を維持するとか、会社の中で高い評価を得るとか、「店長さん素敵！」と言われるこ

ととかでもなく、お客さんに笑顔で「美味しい」って言ってもらうことが、何より一番うれしく元氣源になりました。

というわけで農業をしている現在、勤めをしていた頃と作業内容はまるつきり違います。仕事に対する考え方、スタンス、姿勢は特に変えることなく「お客さんに喜んでいただける、美味しいミニトマトを作る」ことを目標に、まだ見えない笑顔を思い浮かべつつ頑張っています。

担い手として

浅野 克幸 さん(添川)

私は、添川東山地区で両親と共に水稲(約九ヘクタール)と酪農(搾乳牛二十頭)の複合経営に取り組んでいます。

農業大学の特別研修生として、山形市の農業試験場で水稲の基礎知識を学び、その後就農し今年で四年目になります。

我が家では米を全量直販しており、一般家庭から小売店、飲食店と幅広く取引をしています。また、少しでも安心して食べていただくため、毎月通信文を発行し、栽培風景や飯豊町の風景、出来事等をお知らせしています。やはり食べていただけて「美味しい」と言ってもらえることが一番の『喜び、励み』になります。

こうした長い付き合いの中で、生産者と消費者が米の売買だけでなく、何でも話せる強い信頼関係を築いてゆきたいと思います。



そのためにも、安全で高品質な米作りを目指し、減農薬、減化学肥料による特別栽培米への取組と、牛から出る堆肥を田んぼに還元し、稲わら、田んぼ草を牛に与える、循環型農業をこだわり実践しています。

私は今後も東山地区の担い手として、米を中心とした経営をやってゆきたいと思いますが、農業の課題となっている農業者の高齢化、担い手不足などについて不安を感じています。

今後の農業の方向について、もっと飯豊町全体で議論する必要があると思います。

提言 『今、思うこと』

会長 後藤 隆英

戦後の食糧不足の中で、食糧の増産が叫ばれ、米価も毎年上昇し、農業・農村が一番活気に満ち溢れていた時代から一転し、昭和四十年代中頃から米が過剰になり生産調整が行われる様になりました。稲の作付面積の減少とともに米価も下げの一途で、農家の収入も年々少なくなり、農業関係者の挨拶では「厳しい農業情勢」が定番になっていきます。

農産物の海外からの輸入、農業の担い手の減少・高齢化、山間地での耕作放棄地の増加が見られるようになって久しくなりました。

このような中で本町農業の救いは、最近関係者の努力により次代を担う土地利用型農業法人である「中津川エフエフ」「アグリメントなか」が設立され、今も各地域で今後の自分たちの地域の将来の農業について話し合いがなされていることです。

『今、思うこと』

また、以前と違って情報化の時代となり、どのような情報も共有化され、独自性を打ち出すのが大変難しくなってきました。農業の形は画一的でなく、環境型農業といわれる有機農業も有り、地域を守る山間地域農業も有り、施設型土地利用型、稲作、畜産、野菜、花卉等多様な形態があり、それだけに課題も数多く有りますが、農業法人や若手経営者たちには課題に積極果敢に打ち向かい、自分にあつた農業スタイルを目指して頑張っていたきたいと思っています。

今日の農業情勢は大変に厳しい状況だと思えますが、近い将来必ず農業が脚光を浴びる時期が来ると思っています。目前に迫っている中国やインドの食糧不足を考えると、国内自給率を高めなければならぬことは明白であり、飯豊町の豊かな農地を時代に引き継ぐため、町上げでの取り組みが今まさに必要な時だと思えます。

今日の農業情勢は大変に厳しい状況だと思えますが、近い将来必ず農業が脚光を浴びる時期が来ると思っています。目前に迫っている中国やインドの食糧不足を考えると、国内自給率を高めなければならぬことは明白であり、飯豊町の豊かな農地を時代に引き継ぐため、町上げでの取り組みが今まさに必要な時だと思えます。

会長職務代理 土田 正明

日頃、農業委員会の活動に際して特段のご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、最近の農業情勢を見ると、本当に不安になります。農産物価格の問題、担い手の問題等不安材料が山盛りです。特に担い手については、地区内を見ても農業に携わる若い人が本当にいない状況ではないでしょうか、早目早目の対策を講じなければ大変な状況になる時期が、すぐそこまで来ている感じがします。

でもそんな中で、最近ではハウス経営も当町に根付いてきています。よう、身近にすばらしい研修先が沢山できてきています。これら大いに活用し、新しい農業を

指してもらいたいものだと思います。ぜひ、若い人達の奮起を望むところです。

さて、今回の農業委員の任期も残すところあとわずかとなりました。

私が農業委員になった頃から見ると、農業委員の平均年齢も若くなり、喜ばしい限りです。

振り返ってみますと三年の任期も本当に早いものでしたが、この間の農業委員の活動に際し、みなさまから多くのご支援をいただきましたことを、改めてお礼申し上げます。

これからも、若い人たちが農業委員会を、地域を、そして町を大いに盛上げていただきたいと思います。

平成17年度 飯豊町農業委員会 総会開催予定

月	日	曜日
4	25	月
5	25	水
6	24	金
7	25	月
8	25	木
9	26	月
10	25	火
11	25	火
12	26	月
1	25	水
2	24	金
3	24	金